



木下 昂哉 建築設計計画研究室

□コンセプト

現在、都市・地方の住宅街は発展する一方、 本来そこにあるはずの地域住民同士のコミュ ニティは希薄になっているのではないか、と 疑問をもった。そんなコミュニティの減少の 要因として「公園の減少」が挙げられる。 かつては、都市に必要な環境基盤としての場、 住民にとっての憩いの場、災害発生時の避難 場としての利用がされてきた。

しかし、2008年の人口約1億2800万人をピ ークに少子高齢化が進み、「使われない公園」 が多く目立ち始める。そんな公園の中でも児 童公園に焦点を当て、遊び場の空間としてだ けでなく多世代が交流し、コミュニケーショ ンを取る空間とすることで、本当の地域の憩 いの場になると思った。

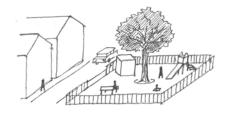
□プログラム

場所は東京 23 区の中でも子育て支援に力を 入れている北区。その北区の中で、王子本町 公園、豊島七丁目北児童遊園、豊島四丁目南 児童遊園の大中小、規模の異なる三つの敷地 を選び、それぞれの公園に適応できるプログ ラムを考えた。

□デザイン

「児童公園活性化のための五箇条」を基に、 様々な設計者が自由に設計する。

従来の児童公園



- 画一的なデザイン
- ・緑石やフェンスで囲まれた空間
- ・ただ点在している遊具やベンチ

活性化した児童公園





児童公園活性化のための五箇条

- 1. 公園周辺の利用できそうな建物 (空き家や店舗、集合住宅…etc.) の -階を必要諸室にリノベーション
- 2. 公園にフェンスの壁をつくらない
- 3. 休憩スペースに変化をつけること
- 4. 各施設と公園が道路で分断されている場合、施設前に関係性のある空間を設ける
- ・パーゴラテラス
- ・トイレ+災害時用井戸
- 防災格納庫
- ・遊具
- ・水飲み場 …場所性、環境、歴史によってデザインを変えること



























円形の遊具

円形の居場所

点在していた各機能



王子本町公園

豊島七丁目北児童遊園

豊島四丁目南児童遊園

